

「鉄と鋼」寄稿規程

1. 論文は本誌に載せる前に他の学協会誌およびこれに類する刊行物に発表されないものに限る。
2. 論文は本協会講演大会または地方講演会であらかじめ発表したものであること、ただし、協会より特に依頼するものはこの限りでない。また、講演前刷原稿には適用しない。
3. 原稿用紙は本協会所定のものを用いること。
4. 原稿の長さは、図表を含めて会誌8ページ（所定の原稿用紙40枚）を超えないこと。ただし、講演前刷原稿は図、写真、表を含めて7枚以上11枚以下とすること。
5. 本会所定の原稿表紙用紙（またはこれと同一様式のもの）に必要事項を記入して表紙とすること。なお講演前刷原稿はさらに講演申込用紙を添えて申込むこと。
6. 一論文が数報にわたる場合は、原則として各報ともその副題を本題とし、主題は副題の下に括弧を付して併記すること。

(例) 燃入性におよぼす酸素の影響について
(鋼の焼入性に関する研究—Ⅲ)

なお同一主題による前報告を引用するときは必ずその報告の掲載された会誌の巻、年、号およびページ範囲を参考文献として文末に記載すること。

7. なるべく平易な口語体を用い、左横書とし、漢字はなるべく当用漢字を用い、かなづかいは新かなづかひによること。
8. 論文には必ず欧文題目ならびに欧文要旨（タイプライター用紙1枚以内）を、その和文とともに添付すること。和文題目と欧文題目とは必ず一致するように書くこと。ただし、講演前刷原稿には欧文要旨ならびに和文要旨は不要。
9. ゴシック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ——、~~~~を付すること。
10. 欧文、数字およびギリシャ文字は丁寧に記載し、混同しやすい文字などはとくに注意して書くこと。
11. 数学式は印刷に便利のように注意し、本文中に挿入するときは a/b , $x/(a+b)$ のように書き、行の上下に出ないようにすること。
12. 参考文献は著者名、雑誌名、巻数、発行年度、号数、ページ数の順に記載すること。抄録、翻訳もこれに準ずる。

(例) R. K. Glass: Blast Furnace and Steel Plant, 46 (1958) 2, p. 198~204

13. 表はなるべく本文中に挿入すること。
14. 図、表、写真はなるべく重複を避け、同一事項を図、表両方で表わさないこと。図、写真は合わせて1論文10個以内を原則とし、編集委員会で取捨することがある。ただし、講演前刷原稿については図、写真の数は、図または写真1つが原稿用紙1枚に相当するものとして計算し、その数は5つを限度とする、なお Fig. 1. (a) (b) (c) (d) などの併列図は紙面を多くとるので採用しない。
15. 図、写真、数表には欧文の題目または説明を必ずつけること。また図、写真および数表中の文字は欧文で書くこと。
16. 図、写真は散逸を防ぐため原稿用紙または適当な大きさの台紙に貼付し、右下隅に著者名を記入すること。
17. 図、写真は別紙とし、原稿中にその挿入個所を明示すること。
18. 図はトレースしやすいように明瞭に、かつ、巾を70mm程度に縮写しても判読できるように書くこと。
19. 線図は例図のように目盛線を入れること。
20. 単位、記号を表わすには次ページの例に従うこと。
21. 掲載論文については別刷20部を贈呈、20部を超え別刷を希望する時は超過分に対し所定の料金を申し受ける。ただし、講演前刷原稿の別刷は印刷しない。
22. 原稿は編集委員会で取捨訂正することがある。

(次ページへつづく)

